

## 「大学院生限定 南京大学春季中国語研修 参加報告書」

京都大学人間環境学研究科修士二年 中野志穂

## ① 学習成果

今回は、専門分野の関連から語学の必要性を感じて派遣に参加しました。しかし、実際に現地へ行ってみると、なまりや方言が含まれているために、ほとんど聞き取れない場合もあり、事前に聞いていた以上に中国語の幅広さや多様性を感じ、普通話の学習だけでは実際の生活はなかなか難しいと感じました。週末には北京や上海、揚州などにも行きましたが、各地方における方言の差異はとても興味深いものでもありました。

また、日本とは異なる衣食住の習慣や価値観に触れることで、自分自身の考え方も広がりました。しかし一方で、現地での生活になかなか慣れず、慣れる頃に帰国の時期になってしまったので、次回は長期間留学し、より現地での行動範囲や交流範囲を広めたいと思います。

## ② 海外での経験

週末に泰州にて結婚披露宴に出席させて頂きました。町中が祝賀ムードに包まれ、時折爆竹が鳴り響き、ゲストは地元の住民の方々も含めて三百人近い人数でした。日本の結婚披露宴とは違い、かなり派手で大規模な印象を受けました。

日本人女性と中国人男性の結婚のため、一般的な披露宴とは違う部分もあったようですが、新郎新婦が挨拶をし、各テーブルにお酒を注いで回ったりするなど、日本と共通する習慣もありました。一方、新郎のご両親が各テーブルを回ってゲストからご祝儀を受け取ったり、親戚の方がその後ろで太鼓や銅鑼でお囃子をしたりなど、日本とは異なる習慣もあり、改めて中国は近いようで遠い国であると感じました。

## ③ プログラム内容

二月二十日から授業が始まり、午前八時から十二時まで語学の授業を受けました(五十分×四コマ)。初級上下、中級上下、高級上下の六段階に別れ、各段階とも二～五班あります。最初の二週間は学生がどの班にするか決める期間のため、学生が頻繁に入れ替わります。午後は一時半から授業を再開し、書道や太極拳、HSK対策講座などの選択科目が開かれています。

選択科目がない日は、夫子廟や明孝陵、莫愁湖などの付近の観光地を巡り、週末は高鉄や長距離バスを使って北京や上海、泰州に行きました。

## ④ 進路への影響について

中国人の考え方や習慣を実際に自分の肌で感じたことで、それまでに見聞きしていた話や中国人留学生から抱いていた中国のイメージが大きく変わりました。都心と農村、南方と北方とで考え方も異なり、中国人も一様ではないと感じました。今後も、中国に対する見識を広めたり、語学をより上達させたりすることができるような仕事をしたいと考えています。